

ありがとうございました
～寄附のお礼～

佐渡市にご寄附をいただきました。

○現金 10万円 首都圏佐渡連合会 様

新幹線の駅名を募集

～未来に残る名を応募してください！～

新幹線まちづくり推進上越広域連携会議（事務局：上越市役所）では、上越市にできる北陸新幹線新駅の駅名を全国から募集しています。

募集期限 9月16日（金）まで

応募方法 応募チラシの専用はがき、もしくは官製はがきに次の事項を記入し事務局へ郵送。連携会議ホームページからも応募できます。

<http://shinkansen-joetsu-koiki-renkeikaigi.jp/>

- ・新幹線の駅名とその理由
- ・住所、氏名、年齢、性別、電話番号
- ・応募コース（抽選で特産品等を贈呈）

※1回につき1点の応募とします。何回でも応募できます。

応募・お問い合わせ

新幹線まちづくり推進上越広域連携会議事務局

〒943-8601上越市木田1-1-3

上越市役所新幹線・交通政策課内

☎ 025-526-5111（内線1847）

◎新幹線が開業したら全国に知らせたい、小中学生の我が町自慢を「絵手紙」で募集しています。詳しくは事務局へお問い合わせください。

首都圏情報コーナー

新しい「北一輝像」を語る 作家中川芳郎氏を招き講演会開催

首都圏佐渡連合会では、去る6月18日午後3時から、作家中川芳郎氏（旧畑野町出身、佐渡高卒、東大文学部卒、1972年芥川賞候補）を講師に招き、第4回文化講演会を開催。会場の新潟館ネスパスには佐渡島外の方も含め、予定数を超える93名が参加。演題は「新しい北一輝像…国賊ではなかった…」で、講演概要は以下のとおり。①現在「佐渡郷土文化」（山本修巳氏主宰）に「悪霊・北一輝異聞」を連載中で、近々単行本を出版予定 ②北一輝の人物像（生い立ち、交友関係、日常生活、錬金術、借金の人等） ③講師が北一輝と関わりを持つようになった動機（孫文との関わり、辛亥革命、「国体論及び純正社会主義」の執筆、山本修之助氏の記述、島ナショナリズムから北一輝のことは佐渡の者にまかせてもらおうと取りかかり現在に至っていること等） ④北一輝の思想（ファシストではない、右翼ではない、左翼でもない。斬新な思想家、革命家） ⑤もし、北一輝の思想革命が成功していたならば、太平洋戦争は起きなかったかも知れない、320万人の尊い命は犠牲にならなくて済んだかも知れない ⑥日本の近代政治史に名を残した郷土の英雄の一人である北一輝は決して国賊ではなかった、と結んだ。講演会は、参加者に昭和の激動期佐渡が生んだ大思想家北一輝の素顔の一部を垣間見ることができたことに深い感銘を与えて予定時間過ぎの5時15分過ぎに終了した。講演会終了後の懇親会には64名が参加。講師を囲み、北一輝論や故郷談義の輪が広まり思い思いに交流を深めた。

（文責：首都圏佐渡連合会文化芸能部会長 元田利夫）



会場風景



熱演する中川先生

随想

ゆめ飛行

No. 57

佐渡市長 高野宏一郎

原発

3月11日の東日本大震災は、我々の安全安心の考え方を根底から揺るがせた。特に原発事故の恐怖は、今後の国のエネルギー問題を問いかけて、国民に原発を受け入れるかどうかを迫っている。

日ごろ他人事のように思えた原発と佐渡は深くかかわっている。佐渡の電気は99%まで石油に頼っているが、東北電力の佐渡の収支は大赤字とのこと、それにも拘わらず本土と電気料が同じなのは、本土の原発のコスト安に負うところが大きいのだ（異論もある）。

最近ドイツ、イタリアでは脱原発が決まった。フランスやアメリカ、もちろん中国や韓国はさらに推進するという。つい先日まで、地球温暖化で化石燃料を減らそう大コールの最中での原発事故で、自然エネルギーの開発導入は佐渡市も努力はしているが、明日の需要充足には間に合わない。

現在、世界は将来エネルギーへの見極めでは混乱が続いている。現実的にはエネルギー資源小国の日本は自然エネルギーへの見直しをつけるまでは、原発の安全に最大限の配慮と、徹底した情報公開をした上でのエネルギーミックス（わが国の実情に合わせたエネルギーの組み合わせ）しかないのが現実である。

柏崎刈羽原発から佐渡市の距離は一部50キロ圏内にある。安全への対応と対策のため、すでに圏内自治体の勉強会に参加して、佐渡市も当事者である立場を明確にしている。方が一の時の対応についても、福島県横館村には今年3月まで佐渡にいた齋藤元彦総合政策監が国から派遣され、6月末までの村民一斉退避を指揮していたので現地の様子を聞いてみることにしたい。

（題字 高野宏一郎）

